

安全の手引き

令和7年2月
在オマーン日本国大使館

はじめに

この手引きは、当地に在留する皆様の防犯及び交通事故対策、並びに緊急事態の備えとして、「防犯の手引き」及び「緊急事態時対処マニュアル」の2部構成でまとめたものです。緊急事態とは、在留邦人の生命、身体、財産に対して脅威を及ぼすおそれがあると認められる戦争、内乱、クーデター、暴動、騒擾、テロ、ゲリラ、大規模事故、自然災害等を想定しています。

日本国内とは事情の異なる海外での生活は、日頃からの備えが大変重要です。当地で生活される皆様にとって、本手引きが、いかなる事態にも落ち着いて対処するための一助となれば幸いです。

目次

防犯の手引き

| | | |
|-----|------------|---|
| I | 防犯の基本的な心構え | 1 |
| II | 最近の治安情勢 | 2 |
| III | 防犯のための注意事項 | 2 |
| 1 | 住居選択と防犯対策 | |
| 2 | 外出時の防犯対策 | |
| 3 | 交通事情と事故対策 | |
| 4 | 誘拐対策 | |
| 5 | とっさの一言 | |

緊急事態対処マニュアル

| | | |
|-----|-----------------------|----|
| I | 日頃からの準備 | 8 |
| 1 | 在留届の提出と更新 | |
| 2 | 連絡体制の整備 | |
| 3 | 当館からの連絡手段 | |
| 4 | 緊急事態における携行品等、非常用物資の準備 | |
| II | 緊急時の行動 | 9 |
| 1 | 心構え | |
| 2 | 当館への通報 | |
| 3 | 緊急避難先 | |
| 4 | 国外への退避 | |
| III | 爆弾テロに対する心構え | 10 |
| 1 | 爆弾テロに巻き込まれないために | |
| 2 | 爆弾テロに巻き込まれたら | |
| IV | 水害に対する心構え | 11 |
| 1 | 水害に関する主な留意事項 | |
| 2 | 豪雨時注意箇所 | |

別紙：主要緊急連絡先

防犯の手引き

I 防犯の基本的な心構え

1 自分と家族の安全は自分達全員で守る意識の高揚

治安の善し悪しに関わらず、日頃から自分と家族の安全は自分達で守るとの強い心構えが極めて大切です。

2 安全のための三原則

安全のための三原則とは、「目立たない」、「行動を予知されない」、「用心を怠らない」を指します。日本での行動形態や生活様式をそのまま海外に持ち込むと、本人が意識していなくても目立ってしまい、自らを危険にさらしてしまう場合もあります。

3 予防と最新の情報の入手

予防こそが最善かつ最重要の危機管理です。居住地周辺の変化に注意を払い対策を施す他、現地人、隣人、在留邦人、現地報道、テレビ及びインターネット等からローカル情報の入手に努めることが大切です。

そのためには、平素より現地人コミュニティや在留邦人等と付き合い、良好な関係を築くよう努め、様々な個人や組織とのネットワーク作りを心がける必要があります。

4 危機管理意識の風化を防ぐ

当地での生活が軌道に乗った後、時間の経過とともに発生する「慣れ」を排除することが非常に大切です。

5 悲観的に準備し、楽観的に行動する

常に最悪の事態を想定して万全の準備を講じる一方で、日々注意しながらも楽観的に日常生活を送ることが大切です。

6 住居の安全確保

住居は生活の基盤であり、その安全を確保することは安全対策の中でも最優先事項です。住居の安全対策が確保されなければ、日常生活にも悪影響を与える結果となりかねません。したがって、住居の選択には十分すぎるくらいの検討時間を費やすことが必要です。

7 精神衛生と健康管理

生活環境や習慣の大きく異なる海外生活は、長期間にわたる緊張を余儀なくされる場合も多く、精神面、肉体面の自己管理が重要です。体調に異変を感じたり、精神的に不安を覚えたりした場合は、手遅れにならないよう早めに必要なチェックを受けましょう。

II 最近の治安情勢

当地の治安状況は、近隣の中東諸国に比べ良好と言われているものの、路上強盗、空き巣、車上狙い、自動車盗など市民生活に身近なところで発生する犯罪も少なからず確認されています。

また、薬物関連犯罪は、検挙件数・押収量も多く、巻き込まれることがないように、一定の注意が必要です。夜間、大規模ショッピングセンターや酒類を提供するホテル、飲食店及びその周辺、海岸沿い等には素行不良者がたむろしていることもあり、トラブルに巻き込まれる可能性があることを念頭に行動するようにしてください。

商業地区であるマスカット市内のルイ、マトラ地区は、外国人労働者や低所得者層が居住しているため、市内の他の地区に比べて注意が必要です。

なお、日本人や欧米人等、特定の国民や外国人を対象とした犯罪発生傾向は認められません。2024年7月、ルイ地区に近い、アル・ワーディー・アル・カビール地区のモスク付近において銃撃事件があり複数の死傷者（外国籍含む）が発生しました。こうした事件は当地では珍しくはありますが、外出の際には周囲の状況に気を配り、不測の事態に巻き込まれることのないよう身の安全の確保に努めてください。

III 防犯のための注意事項

1 住居選択と防犯対策

(1) 周辺環境

- ア 低所得者風の者がたむろしていないか。
- イ 監視されやすい環境にないか。
- ウ 通勤や通学に際し問題のある地域を通過しないか。
- エ 近隣の警察署や医療機関の位置は把握できているか。
- オ 降雨時の水はけが悪くないか。（当地は排水施設が十分整備されていない所が多く、少雨でも冠水する地域及び家屋が少なくない。）

(2) 住居外周及び敷地内

- ア 敷地内に第三者が自由に入出入りできる構造ではないか。
- イ 住居が袋小路に所在している、あるいは出入口や窓が植物や外壁等の陰になっており、通行人及び近隣者の目が届かない構造になっていないか。
- ウ 建物周辺に照明設備が整っているか。または 夜間帯、真っ暗な箇所がないか。
- エ 駐車場の出入管理、照明設備、夜間の出入口管理は万全か。（管理人や守衛によって管理されているか。ただし、守衛を完全に信用してはならない。）
- オ 外塀が高く堅牢であるか。
- カ 庭の植え込みや樹木は死角になるので、日頃からよく整備を心がける。
- キ 住居侵入に使用可能な梯子や足場となるものが放置されていないか。

(3) 建物

- ア 侵入者用及び火災用警報装置（非常ベル）、非常階段はあるか。扉及びその枠は頑丈か。
- イ 2つ以上の錠前、しっかりした防犯チェーンがついているか（前任者の住居を引き継ぐ場合、鍵を交換した方がよい）。
- ウ 覗き穴、インターホン等、訪問者を確認する手段があるか。
- エ 玄関ドア以外の扉、窓及び窓枠も強度、施錠はしっかりしているか。
- オ 住居内の電気や排水施設が故障した場合の体制が整備されているか。

(4) 家庭での防犯対策

- ア 平素より家族と安全対策について話し合い、住居に異常があった際の行動を理解させておく。特に子供に対しては、来訪者に対する警戒及び電話応対時の注意、親が不在時の注意事項を教える。
- イ 入口は常に施錠する。
- ウ 貴重品、現金等は施錠可能なところに保管する。
- エ 使用人を雇う場合、玄関の扉を常に施錠することや、来訪者は必ず覗き窓で確認し対応について主人の指示を仰ぐよう指導する。
- オ 使用人の友人・知人の自宅来訪は許可しない。
- カ 休暇などで長期不在時は新聞をキャンセルする。
- キ 電話を応答する際、こちらから名乗らない。また、間違い電話に対して、こちらから番号を教えない。

2 外出時の防犯対策

(1) スリ及び置き引き

ホテル及びそのプールサイド並びにレストラン、空港等、人が多く集まる場所で被害が報告されています。

【対策】

- ア 多額の現金、貴重品は持ち歩かない。
- イ 簡単に窃取される箇所に財布を入れない。ジャケットを脱いで椅子などに掛ける際には、内ポケットに入れている貴重品に注意する。
- ウ 食事中でも鞆が自分の体に密着するように置くなど、盗難被害に遭うことの無いよう工夫する。高級とされるホテルのレストランなどでも決して油断しない。
- エ お金を支払う時には、財布の中を他人に見られないようにする。

(2) 強盗

夕方、海岸沿いを散歩中の路上強盗や、夜間、家屋に忍び込み、家人に発見され事後強盗に発展した被害も報告されています。また過去には、警察官を騙って住居に押し入り、金品を強取した事案も確認されています。

【対策】

- ア 早朝、夜間の一人歩きは避ける。

イ 目的地までは、できる限り車両を使用する。

ウ 全ての扉や窓の常時施錠を徹底する。訪問者があっても、すぐに扉を開けず、覗き窓やインターホンで訪問者を確認し、扉を開ける時にも、防犯チェーンをかけたまま細めに開ける等、用心を怠らない。

エ 犯罪者は、凶器を所持している可能性もあるので、万一被害に遭った場合は、生命を第一に考え、抵抗しないことが肝要。

(3) キャッシュカード関連犯罪及び詐欺

遠隔操作のカメラ等で暗証番号を読み取り、偽造キャッシュカードを作成し、現金を窃取する犯罪や、偽造した公文書等を使用した詐欺等が報告されています。

【対策】

ア ATMのタッチキー操作をもう一方の手で隠す。

イ 暗証番号を頻繁に変更する。

ウ 預金引き下ろしに不自然な点はないか、日頃から預金残高に注意を払い、不自然な点を確認された場合は、直ちにキャッシュカードの失効処理を銀行に申請する。

エ カードが使用された際に、銀行からSMSが送信されるサービスに加入する。

(4) 自動車盗・車上ねらい

【対策】

ア 車内に鞆等を放置したまま離れない。

イ 短時間であってもドアは全てロックする。夏場でも、エアコンをかけたまま（エンジンをかけたまま）車両を離れない。

ウ 異常時にサイレンが鳴る警報装置を取り付ける。

エ 駐車の際は、警備員や防犯カメラにより監視されている駐車場を利用する。

(5) 性犯罪

当地を観光目的で訪問していた女性が当国人に言葉巧みに車両内に誘導され、山岳地帯に連れ去られた事案が過去に発生しています。

【対策】

ア 当国は他のイスラム教国に比べ、比較的西洋文化に寛容だが、イスラム教徒の女性は、公共の場ではアバヤを纏っているのが基本であり、当地文化を尊重し、大胆に素肌を出さず、体の線がはっきりした服装を避けるよう注意を払うことが必要。

イ 夜間の一人歩きや、路地等の込み入った場所へ行くことは避ける。

【参考】

過去、当地を単独で旅行中の女性が、流しのタクシーを拾って乗車中、運転手から性的関係を求められたという事案が発生しています。他にもタクシーを利用した女性から、運転手からセクハラに該当する言動を受けたとの報告も受けており、タクシーの単独利用には特に注意が必要です。もし、女性が単独でタクシーを利用する場合は、以下の対策をお勧めします。

【対策】

ア 流しのタクシーを避け、配車アプリを利用するか、ホテル等に停まっているタクシ

ーを利用する。

イ 事前に車両ナンバーもしくはタクシー番号を控える。

ウ 助手席は避け、後部座席に座る。

(6) 宗教及び当地慣習への配慮

ア 当地では公共の場での飲酒は禁止されており、酒類は許可を得た限定的な店舗でのみ販売・提供されているため、飲酒場所には注意する。

イ ラマダン期間中は、日の出から日没までの間、公共の場所での飲食及び喫煙等が禁止となるため、人前での飲食、喫煙は控える。

ウ 当地では非イスラム教徒が訪問可能なモスクは限定されており、訪問時間も決まっているため、事前に確認を行う。また、女性に対してはスカーフ等で髪を覆う、またはアバヤの着用をモスク入場の条件とする場合も多い。

エ 軍事施設（軍用・警察車両や関係者の活動の撮影含む）、空港、港湾施設、国境、政府高官居住地域や大使館施設の写真撮影は禁止されており、違反者には罰金刑・懲役刑が科される可能性があるため控える。また、人物（特に女性や子供）を撮影する場合には、トラブルを避けるためにも事前に本人の承諾を得るようにする。

(7) その他一般的注意事項

ア ホテル利用時

(ア) 旅券や携行しない金品等は、部屋のセーフティボックスに保管する。

(イ) チェックイン後、再度パスポートの提示を求められた場合は、その場で応対せず、フロントに確認する。（通常、そのようなことは行われぬ。）

(ウ) 在室中は防犯チェーンを必ず掛け、ロックされても不用意にドアを開けない。

イ 私服警察官に職務質問を受けた場合

警察官に身分証明書の提示を求め、確認する。警察署への同行等の要求に安易に応じない。

3 交通事情と事故対策

(1) 交通事故発生状況

2022年における交通事故発生件数は、1,877件、同死亡者数は532人と、10年前と比べると劇的に改善しています。しかしながら、人口10万人あたりの交通事故死亡者数を日本と比較するといまだに高水準にあります。

(2) 交通環境

都市部の道路や主要幹線道路には街灯が設置され、保守・管理も行き届いていますが、夜間の長距離の運転は、街灯設備の未設置、道路を横断する歩行者やラクダを始めとする家畜、速度超過の車両が多いなどの理由により危険を伴います。

運転マナーは日本に比べて悪く、車間距離が短い上に、無理な割り込みや方向指示器を出さないことが頻繁なため注意が必要です。

(3) 交通違反の取り締まり強化及び厳罰化

警察では、事故原因の殆どが速度超過に起因すると分析しており、また、交通死亡事

故を抑制するため、速度超過、信号無視、飲酒運転、シートベルト未着装及び携帯電話を使用しながらの運転等、交通違反の摘発に力を入れています。場合によっては、高額の罰金刑に加え、身柄を拘束されることもある他、警察官に対する反抗的な態度は公務執行妨害と見なされ、厳しい刑罰を科せられることもあります。取締りを受けた場合、努めて冷静に対応しつつ、警察官の指示に従い、できればアラビア語を話す身元引受人や現地職員の応援を求めるのが適当です。

(4) 交通事情に慣れる

- ア ラウンドアバウト及び高速道路の合流・分岐箇所は特に注意する。
- イ 夜間は、バンプ（道路上に設置された減速帯）を見落としがちであるため注意する。
- ウ 3車線又は4車線等の道路で、道路工事などにより急激に車線を絞っている道路に注意する。
- エ 地方の片側一車線の道路では、高速で無理な追越しをする車両に注意する。
- オ 夏期、高速道路の走行時には、パンクが多発するので、予備タイヤ及び飲料水等を携行する。

(5) 事故の当事者となった場合

- ア 以下の要件を満たしている場合は、軽微な物損事故として、警察官の臨場なしに手続きを行う事ができます。
 - (ア) 双方の被害程度が軽微
 - (イ) 人身への被害がない
 - (ウ) 双方で事故原因に関し紛議がない
 - (エ) 当該事故により、第三者又は公共の建造物等への被害がない
 - (オ) 双方とも飲酒していない

この場合、他の交通を妨害しない場所へ速やかに車を移動させて双方が修理について話し合った上、規定の報告書を作成し、両当事者が車両とともに保険会社へ向かう流れになります。

なお、軽微な事故であるにもかかわらず、速やかに車両を移動させず交通渋滞を招いた場合や、警察官非臨場で処理できる事故であるにもかかわらず警察官を臨場させた場合等は、罰金が科される場合があるので注意を要します。

- イ 上記を満たさない場合は、車を動かさず現場を保存し、警察の実況見分後、事故証明を取得し保険会社に連絡します。
- ウ また、相手の連絡先の確保を忘れず、万が一に備え、事故直後の状況を撮影し、可能であれば事故の目撃者を確保しておくことも大切です。さらに、安易に示談に応じないことも重要です。

4 誘拐対策

当国の誘拐事件は、わいせつ目的の場合や、既知の間柄による身代金目的又は怨恨によるものが報道上確認できます。幸い、邦人が被害者となった誘拐事件は発生していませんが、誘拐の被害に遭わないためにも、日頃から狙われにくくする努力が必要です。

誘拐犯は一般に誘拐対象者の下調べを長期間行うため、何らかの兆候があります。小さなお子様のいる家庭では、身代金目的の誘拐だけでなく、性的ないたずらが目的の誘拐対象となることがあることを念頭に置く必要があります。

【一般的注意事項】

- ア 自宅、勤務先を出るときに周囲の状況を確認する。
- イ 通勤経路は頻繁に変更する。
- ウ 車両乗車後は確実にドアロックする。
- エ 人通りの多い場所などでは子供の手をつなぎ、親の目の離れた場所で単独行動をさせない。
- オ 知らない人について行かないことを言い聞かせる。
- カ 助けを呼ぶ場合の最低限の表現を教える。

ご自身やご家族または他の邦人の生命、身体、財産に危害が及んだ場合、あるいは及ぶ恐れがある事態に至った場合には、恐れ入りますがその状況を当館までご連絡ください。

5 とっさの一言

犯罪被害を受けた際の警察への緊急通報等では、簡潔に話しましょう。なお当国においては警察官がアラビア語しか話せないことが多いので、最低限のアラビア語を覚えましょう。

- ・「泥棒」「スリ」＝ハラーミィ
- ・「殺人」＝カトゥル
- ・「強盗」＝サリカ
- ・「交通事故」＝ハーデイス
- ・「救急車」＝イスアーフ
- ・「警察」＝シュルタ
- ・「パトカー」＝ドーリーヤ又はサイヤーラ シュルタ
- ・「警察を呼んでくれ」＝イッタスィル ビッシュルタ
- ・「助けて」＝サーアドゥニ

緊急事態対処マニュアル

I 日頃からの準備

1 在留届の提出と更新

外国に住所又は居住を定めて3か月以上滞在する日本人は、旅券法第16条により、その地を管轄する日本国大使館・総領事館に在留届を速やかに提出するよう義務づけられています。

オマーンに到着し、住所又は居所が決まりましたら、在留届をオンライン在留届([ORRネット](#))によりご提出ください。在留届の提出後、転居やメールアドレスの変更など記載事項に変更があった場合、日本に帰国、或いはオマーンから他国へ転出される場合には、ORRネットで届出を行ってください。

3か月未満の滞在の場合は、「[たびレジ](#)」に登録してください。

2 連絡体制の整備

緊急事態はいつ起こるとも限りませんので、予め家族間及び企業内での緊急連絡方法について検討されることをお勧めします。お互いの所在を明確にすることが大切です。

3 当館からの連絡手段

当館では、必要に応じ、在留邦人の皆様の安全に関わる治安情報等を、在留届に登録されているEメールアドレスに送信しています。「たびレジ」に登録された方にも一部の情報を除き配信しています。さらに必要に応じ、個別に皆様の携帯電話、所属先、自宅等に電話連絡します。このため、在留届、たびレジに届出している連絡先に変更があった場合には、速やかに変更の届出を行ってください。

4 緊急事態における携行品等、非常用物資の準備

| 品名 | 備考 |
|-------------------|--|
| 旅券（パスポート） | 6か月以上の残存有効期間を入国の要件としている国がありますので、緊急時の退避に備え、常時6か月以上の残存有効期間、また十分な余白ページを保持してください。1年以下になった場合、また余白ページが少なくなった場合、当館で切替発給手続が可能です。 |
| 現金 | 米ドル、オマーンリアル（家族全員がある程度の日数を生活できる程度） |
| 貴金属、重要書類等最低限必要なもの | 直ちに持ち出せるよう予めまとめて保管しておくこと、いざという時迅速に行動できます。 |

| | |
|---|---|
| ガソリン | 自動車は日頃から整備し、燃料は常時十分に入れておくように心がけてください。 |
| 懐中電灯、地図、シート、タオル類、ティッシュペーパー | 車内に常備しておくことをお勧めします。 |
| 非常用食料、飲料水、医薬品、燃料等（米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等） | 緊急時には一定期間自宅で待機せざるを得ない場合もありますので、一週間分程度準備しておくことをお勧めします。 |
| 衣類・着替え | 行動しやすく、吸湿性、耐暑性に富むもの。長袖、長ズボンのような温度調整ができるもの。人目を惹く派手な色、形はさける方がよいでしょう。（冬季にはかさばらない防寒着も必要です。特に砂漠地帯では夜間は冷え込みます。） 女性用の髪を覆うスカーフは、当国では通常必要とされていませんが、念のため用意することをお勧めします。 |
| 履物 | 行動しやすい、靴底が厚い頑丈なもの。 |
| 日用品、その他 | 携帯電話、予備バッテリー、洗面具、ライター又はマッチ、ろうそく、ナイフ、固形燃料、簡単な炊事用具、紙製食器・割り箸、栓抜き、ヘルメット、缶切り等。 |

II 緊急時の行動

1 心構え

緊急事態が発生し、あるいは発生する恐れがある場合、在留邦人の皆様の安全確保に万全を期すため、当館では、所要の情報収集及び情勢判断、対策を施し、領事メールを通じて随時ご連絡いたします。また、当館からの情報提供のみに頼るのではなく、ご自身でインターネット、ニュースや新聞等を通じ、最新の情報収集に努めてください。平静を保ち、冷静な状況判断と行動に努め、流言飛語に惑わされて群集心理に踊らされる事のないようご注意ください。

2 当館への通報

在留邦人間で共有できる特異な情報及び安否状況等については、随時当館にご連絡頂くようご協力をお願いいたします。

また、事態が悪化し、各自又は所属する会社等の判断、当館の勧告により、帰国又は第三国に退避する場合にも、その旨当館にご一報ください。当館に事前連絡が困難な場合には、避難先到着後、最寄りの公館又は日本国外務省にご連絡ください。（外務省海外邦人安全課：代表電話 03-3580-3311、直通電話 03-5501-8160）

3 緊急避難先

- (1) 緊急事態が発生した場合は自宅待機が原則です。慌てず、流言に惑わされずに状況を確認することが大切です。事態発生後、数日で混乱が収束する場合があります。
- (2) 自宅周辺が危険な状況で一刻も早く離れる必要がある場合は、ホテル並びに友人及び知人宅等安全と思われる場所へ退避後、その旨を当館へご連絡ください。
- (3) サイクロンの接近に伴い避難が必要な場合は、当国政府が学校を避難場所として提供する場合があります。

4 国外への退避

- (1) 事態が悪化する前の、できるだけ定期商用便が運航されているうちに退避することを強くお勧めします。万が一、定期商用便が運航を停止した場合は、本邦政府がチャーター機を手配することを検討することもあります。その場合でも手続には相当の時間を要することが考えられますので、当館からの連絡が可能な状態を維持してください。
- (2) 状況によっては、陸路でUAEへ脱出することもあり得ます。ソハールを経由しドバイ方向へ退避するルートは、道路の夜間照明及び給油所、コンビニエンス・ストアがところどころに見当たりますが、ニズワを経由するルートは、ニズワを過ぎてから片側一車線になり夜間照明の無い道路も多い他、給油所やコンビニエンス・ストアがほとんどなく、あまり推奨されません。
なお、緊急事態時には、国境が閉鎖される可能性もあります。

Ⅲ 爆弾テロに対する心構え

1 爆弾テロに巻き込まれないために

当国ではこれまで爆弾テロ事件は発生していません。しかし、爆弾テロ事件は、必ずしも事前の予告があるわけではなく、また、直接のターゲットとなっていなくても巻き込まれる可能性もあり、日頃から、以下の諸点について警戒を怠らないことが重要です。

- (1) 爆弾テロの発生状況や、その可能性の有無について具体的な情報収集に心がけてください。
- (2) 爆弾テロ発生の可能性が高い場合には、標的となる恐れのある施設（政府関係、軍事関係、空港、不特定多数の人が集まる場所等）には極力近づかず、やむを得ず立ち入る場合等は滞在時間を極力短くするように努めてください。
- (3) 不審な物体（時計のような音がする、電源らしきものと繋がっている）や人物には決して触れず、速やかに遠ざかってください。
- (4) 自爆テロでは、犯人は爆発物を体に装着するため、不自然な厚着やぎこちない動きとなります。また、緊張から振る舞いが神経質で特異な印象を受けることがあります。
- (5) 最初の爆発を処理する警察や消防要員等を狙った別の爆発が発生する可能性もある

ため、爆発現場には不用意に近づかないようにしてください。

2 爆弾テロに巻き込まれたら

- (1) 爆発は一度とは限りません。爆発音を聞いたら、まずはその場に伏せてください。その後速やかに現場から離れてください。
- (2) 現場から離れる際、他の逃げる人に押し倒されないよう、十分注意する必要があります。
- (3) 瓦礫等の下敷きとなった場合には、救出までに時間が掛かることも予測されますので、体力の温存に努める必要があります。埃等の有害物質を吸い込まないようにハンカチ等で口を覆い、救助隊に居場所がわかるようにパイプ等を叩いてください。
- (4) 怪我の有無に拘わらず、当館及び家族に連絡をしてください。

IV 水害に対する心構え

当地は、年間降雨量は少ないですが、道路、給排水施設等のインフラの脆弱性から、短時間の降雨でもワディ（涸れ川）の氾濫、道路の冠水による交通麻痺、長期にわたる断水、停電、家屋・道路等の浸水が起きやすい環境にあります。

1 水害に関する主な留意事項

- (1) 特にサイクロンの接近が予想される夏期（6月～8月）や雨が降りやすい時期（11月～3月）は気象状況に関する情報収集を行う。
- (2) 水害に備え、平素から十分な食料、飲料水、生活用水等の確保に努める。
- (3) 豪雨時の危険箇所（冠水箇所、ワディ周辺等）を平素から把握しておく。
- (4) サイクロンの接近等により冠水、浸水等が予測される場合、早めに安全な場所に避難する。
- (5) 大雨時、暴風雨時における不要不急の外出、車の運転は極力避ける。
- (6) 暴風雨時、海岸線、増水したワディには絶対に近づかない。
- (7) 冠水時には徒歩や車による避難が危険な場合もあるので、最寄りの2階以上の建物等へ避難する。
- (8) 沿岸部居住者には、当地政府機関から避難勧告が発出される場合があるので、その指示に従う。
- (9) 氾濫時に海岸線やワディ周辺の道路、橋を通行する場合、崩壊の危険性に注意する。

2 豪雨時注意箇所

沿岸部では高潮被害が予想されるほか、在留邦人の生活圏内や、マトラスーク等観光客が行く地域でも、市内の各所で降雨による冠水が見られるので注意が必要。道路の排水設備が整っていないため、日本ではさほど大雨と見られない降水量でも冠水する場合がある。また、

降雨時は集中豪雨のような気象状況になることもよくあるため、短時間で冠水状況になり得るので、降雨予想が出ている場合は注意する。

主要緊急連絡先

○警察 (ROYAL OMAN POLICE、略称「ROP」)

| | |
|-----------|--------------------|
| 緊急コールセンター | 9 9 9 9 (警察、消防、救急) |
|-----------|--------------------|

○ 在オマーン日本国大使館 (休館日：金、土)

| | |
|---------------|---|
| 電話番号 | (国番号968) 2 4 6 0 1 0 2 8 |
| 開館時間 | 午前7時30分から正午、午後1時00分から午後4時15分 (領事窓口：午前8時から正午、午後1時から午後3時) |
| 閉館時の連絡先 (緊急時) | 9 9 3 1 3 5 2 1、9 9 4 3 7 3 9 7、 9 9 3 3 5 2 6 5 |
| 所在地 | Villa No.760, Way No.3011, Jamiat Al-Duwal Al-Arabia Street, Shati Al -Qurm |

○主要な病院

国立病院は、原則として救急外来のみ受診が可能ですが、それでも診療を拒否される場合もありますので、避けた方が無難です。各病院の詳細は外務省 HP の「世界の医療事情」のページも参照してください。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/nm_east/oman.html

| | |
|----------------------------------|----------------------|
| Muscat Private Hospital (私立) | (代表) 2 4 5 8 3 6 0 0 |
| Burjeel Hospital (私立) | (代表) 2 4 3 9 9 7 7 7 |
| Al Raffah Hospital (私立) | (代表) 2 4 4 9 7 2 9 0 |
| Khoula Hospital (国立) | (代表) 2 2 5 0 1 0 0 0 |
| Kims Oman Hospital (私立) | (代表) 2 4 7 6 0 1 0 0 |
| Oman International Hospital (私立) | (代表) 2 4 9 0 3 5 0 0 |
| Nizwa Hospital (国立) | (代表) 2 5 2 1 1 0 0 0 |